

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【社会】

掲載数

57

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小4	社会	防災教育 「地震からいのちを守る」	社会科の学習で防災について学習をした。避難訓練などの際に「自分の命は自分で守る」ということは学習してきたが、改めて命を守るために何をしないといけないのかを考えた。自助・共助・公助と命を守るための取り組みには種類があることを学んだ。教科書での学びだけでなく、校内の防災備蓄庫を見学したり知育の防災施設を見学したり、川崎市から配布されている資料を読んだり、多様な資料から学び、自分も地域の一員として、いざというときには行動しようという思いをもった。	
2 川崎市	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	県内で過去に大きな自然災害が定期的発生していること、発生した際には県や市、警察署や消防署、消防団などの関係期間が地域の人々に協力して、自然災害から人々の命を守るために対処してきたことを学習した。いっどこで起こるか分からない大きな地震に対して、自分の命を守るためには、どのような行動をとるとよいか、また、その命を守るために、様々な人が助け合っていることを知り、自分にできることを真剣に考えていた。	危機管理室の方へのインタビューをまとめたスライドを活用
3 川崎市	小3	社会	地いきの安全を守る	事件や事故・火事が起きた時に何処に連絡をすれば誰につながり、どのようにして警察署や消防署が連携をして事件や事故からまちを守っているのかを学習した。また、事件や事故・火事が起きないためにどのような取り組みをしているのかについても学習した。学校や地域にどのような設備があり、何のためにあるのかを調べ、自分やまちの安全を守るために、自分にできることを考えていた。	消防士の方に来ていただき、設備の説明や消火の工夫を聞くことができた。
4 川崎市	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	自然災害にそなえるために、「学校でできること」「家庭でできること」「学校が取り組んでいること」「公的機関が取り組んでいること」をテーマに学習を進めた。学校の防災倉庫と川崎市の防災倉庫に備えてある物品を比較し、学校は安全なところであるとの気付きがあった。命を守るために、どのような防災グッズを自分の家庭に用意したら良いのかを考えて発表した。家族の人数の違いや高齢者と暮らしているなど家族構成によって備えるものが異なり、家族全員の命を守るためにはどうしたらいいのか真剣に取り組む姿があった。	(参考資料) 宮前区発行のハザードマップ 川崎市発行の防災パンフレット 東京防災
5 川崎市	小4	社会	防災教育 自然災害にそなえるまちづくり	自分の通っている学校が水害時に避難所になることを知り、学校がどのように避難所としての役目を果たすのかを理解した。そして、水害時に命を守るために自分たちができることを考えて発表し合った。	講師は教頭先生

6	川崎市	小4	社会	防災教育 社会科「水害に そなえるまちづ くり」	多摩川が学区にある本校では、令和元年の水害の時に学校が避難所として使われたことがあることを知る。地域に「地域避難所運営会議」という組織があり、地域の人々と学校が協力して、学校を避難所として運営していくことを知る。運営会議の委員長の方が来校し、避難所を実際に開設した時のお話を聞いたり、防災倉庫の中にある物の説明を受けた。また、「避難所に来る人はお客様ではない。運営している方も被災者となる場合もある。みんなで協力して、みんなの命を守るという気持ちが大切である。」というお話をいただいた。子どもたちは、災害が起きた時、まず自分の家族の命を守るために何ができるかを考えて、各自「我が家の防災パンフレット」を作成した。	講師は地域避難所運営会議の委員長 学校の防災設備を見学したり、川崎市の「防災ポータルサイト」を見て、ハザードマップを確かめたり、自分の家の避難場所を確認したりした。
7	相模原市	小3	社会	ファイヤース クール	消防署の方に来ていただき、火事から命を守る行動について学んだ。訓練用の煙を充満させた部屋から逃げる練習や、訓練用消火器を使った消火の練習、119番通報の練習を行った。実際に一人一人が体験することで火事から命を守る行動が分かったようである。後日、校内の消防設備を調べたり、消防署を見学したりする取り組みをした。	地域の消防署の方、消防団の方が来校
8	相模原市	小3	社会	防災教育「火災 から命を守る」	市の消防団員を招いてファイヤースクールを行った。学校の体育館で、煙の中を避難する訓練や119番通報をする体験、消火器を操作する体験をした。訓練をとおして、災害時に命を守るための適切な行動について考えを深めることができた。	講師は、相模原市の消防団員。実際に現場で使われている消防車を用いて講話を行った。 参考テキスト「教育出版 社会科 小学校3年」「防災ハンドブック」
9	相模原市	小3	社会	安全を守る 「ファイヤース クール」	社会科の学習の一環として、ファイヤースクールを実施した。社会科の学習では、教科書やNHK動画を用いて学習を進め、その後、煙体験や水消火器の使い方、119番通報の仕方などの体験活動を通して、火災の際、どのように行動すればよいのかということ学んだ。自分の命を守るための行動を一人一人がしっかり考えることができた。	南消防署職員
10	相模原市	小4	社会	災害に備えるま ちづくり	災害に備える自治会の活動を調べることを通して、災害時に自分たちができることを考えた。いのちを守る様々な取組が行われたことを知るとともに、自分のいのちを大切にしようとする意識が高まった。	
11	相模原市	小3	社会	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火事が発生する原因やどれぐらいの被害が起こっているのかについての講話を聞いた。</li> <li>・体験活動を通して、自分の命を守るために、自分ができることについて学んだ。</li> </ul>	講師：相模原市の消防署の方々
12	相模原市	小3	社会	防災教育「火災 から命を守る」 (ファイヤース クール)	火災の知識などを習得し、火災の危険から身を守る能力を高めることを目的として、ファイヤースクールを実施した。内容は次の通り。①火災の話（火の話、煙の怖さ、火から身を守る方法、着衣着火の場合）②119番通報体験③煙中避難体験④水消火器体験⑤質疑応答。	講師（相模原市消防局 北消防署査察指導課 ・警備課城山分署） 地域消防団

13	相模原市	小3	社会	防災教育「火事からまちを守る」	ファイヤースクールで火事が起きたときの対処法について学習した。煙体験では、煙が上にあがっていくことを知り、体を低くして避難すること、119番通報では、正確な情報を伝えることを体験した。また、服に火がついてしまった時は、床に転がるという事を知り、実際に体験することで、自分のいのちを守る方法を学んだ。消防団の方の話も聞くことができ、火災が起きた時には自分の地域にも助けてくれる人がいるということを知り、感謝の気持ちを伝えている姿が見られた。	講師は、消防署の職員、消防団。
14	相模原市	小4	社会	自然災がいにそなえるまちづくり	相模原市での風水害による被害について知ることで、自分たちが自然災害にそなえることの必要性を感じた。そこで、実際に台風が起きたと想定して、いつから何を準備しなければならないか、台風に向けて「マイ・タイムライン」を作成した。自分の命や家族の命を守るため、そして避難所での生活を想定して、何を準備すると良いか、いつごろ準備し始めると良いか考えることができた。	防災ガイドブック「災害」、国土交通省が出している、「逃げキッド」を使用。
15	相模原市	小4	社会	防災教育「マイタイムラインの作成」	小学校が土砂災害に遭ったことから、自然災害に備えることの大切さを知った。授業では、ハザードマップで避難所を確認したり、マイタイムライン(避難計画)を作成した。作成することにより、災害時に自分や家族の命を守るためにはどうしたらよいか、自分には何ができるかを考える機会となった。	講師は、市役所職員。
16	相模原市	小6	社会	昭和の日本	戦争に行った人たちは、どのような気持ちで戦地に赴いたのか、実際に兵士として戦った戦士たちの手記を読んでその気持ちを理解しようとした。実際には、望んで戦地の赴いた兵士は一人もおらず、皆日本に残した家族のことを考え、生きて帰ることを望んでいたことが分かった。	教科書、昭和館、戦争の手記
17	横須賀市	小4	社会	防災教育「自分の命は自分で守る」	災害時には、①自助・②共助・③公助の3つがあり、これによって命は守られることを学習した。 ①の自助というのは、自分の命は自分で守ること。 ②の共助というのは、地域の人同士で助け合うこと。 ③の公助とは、市や区などでハザードマップや避難場所を作り、いざというときに備えること。 以上3つのことを講師の方からお話いただき学習した。 子供たちは、命を守るためにたくさんの仕組みがあることを知り、驚くとともに命の大切さに気がついていた。	講師は市役所の危機管理課の職員
18	横須賀市	小4	社会	防災教育	「自然災害からくらしを守る」の単元を通して、自然災害に備えて家庭で自分たちができること、学校や地域、自治体が行っていることを中心に学習を進めた。大きな地震がくるとどうなるのかを起震車に乗り体験したり、防災倉庫にある道具や備蓄品を確認したりしながら、大切な命を守るためには、どんな知識や備えが必要なのかを学んだ。国語「もしものときにそなえよう」の学習にも関連させレポートを作成した。	・社会 「自然災害からくらしを守る」(東京書籍) ・国語 「もしものときにそなえよう」(光村図書)

19	横須賀市	小5	社会	自然災害を防ぐ	宮城県石巻市にある木の屋石巻水産という主に缶詰の製造・販売を軸とした会社を中心に学習を進めた。木の屋石巻水産の社員らの中で具体的な人物数名に着目し、彼らが震災当時、どのような被害を受け、命をつないだのかについて調べた。その中で、東京都にある経堂という街の人々の支援が大きな影響を及ぼしたことに気付く。自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解することが単元の最大のねらいである中でも、命の大切さや重さについて振り返りに記入する児童も多くいた。	【講師】 雄勝花物語
20	横須賀市	小6	社会	単元「わたしたちの生活と政治」より「平和主義」	日本国憲法の三つの柱の一つ「平和主義」。児童は日本は昔、戦争をしていたんだという認識はあるが、具体的な経緯やその結果どのような事が起こったか詳しくは知らない。これから歴史を学ぶにあたって、まず近代で日本が行った戦争を知るとともに、なぜ平和主義を憲法の大事な柱の一つとして位置づけたのか、偏った考えに陥らないように慎重に言葉を選びながらその意義を学ぶ。	新しい社会6政治・国際編 NHK Eテレ「歴史にドッキリ」 「太平洋戦争はなぜ起こった？」ポプラ社
21	湘南三浦	小4	社会	防災教育 「地震からいのちを守る」	いつ起こるかわからない地震について、各機関の備えと活動を知るとともに、命を守るために自分たちができることについて話し合った。茅ヶ崎市市民安全部防災対策課の方々を招いての起震車体験では、大地震発生時の揺れの中で自分たちができることは何かを真剣に考えるきっかけとなった。また「岩手県釜石市～命を守る防災教育～」の動画を見て、「想定にとられるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」という避難の三原則を知り、災害のときこそ自分の命、他の命を大切にしたいという感想を書いた児童もいた。	茅ヶ崎市市民安全部防災対策課 授業資料「自然災害から人々のくらしを守る」 動画「岩手県釜石市～命を守る防災教育（東京防災救急協会）」
22	湘南三浦	小6	社会	基本的人権 平和主義	全ての人人間らしく豊かに生きるための権利について学習をした。差別等で苦しむ世の中にするためにはどうしたらよいか考えた。また平和と安全を実現するには何が必要で、自分たちにできることは何かについて話し合った。	6年社会科教科書
23	湘南三浦	小4	社会	命を守る (防災)	防災の学習で災害の一つとして阪神淡路大震災を取り扱った。動画や当時の様子を知る人のSNSによる発信を基にして自分の命を守る方法や、都市の防災機能について学習した。	
24	湘南三浦	小4	社会	「防災に備えて どんなことができるか考えよう」	社会科の学習で地震や津波に備える学習をした。実際に津波がどの高さまで来るのかを知らせるための表示を校門で確認したり、防災倉庫を用務員さんに紹介してもらったりして、公共施設で備えている物と家で個人が備えなければならないものを分けて考えた。その後災害にあったときにグループで何が必要なのかを話し合った。また、話し合ったことを家族にも共有することと、災害時にどこに避難したらよいかなどを家族で確認するなど、今後自分の命を守る行動を意識して生活できるようにした。	用務員 ふじさわP147 「地震から身を守る」

25	湘南三浦	小4	社会	防災教育	社会科の学習で県立総合防災センターに行き、災害の恐ろしさやそれらに備える為に何をしているかを学んだ。地震体験コーナーで大きな地震の揺れを体験したり、風水害体験コーナーで強い風の体験をするなど、普段では出来ない体験をすることで災害の恐ろしさを学んだ。災害が起こった場合に備えて日頃から何をしておくべきか、また、命を守る行動とはどのような行動なのかを話し合いながら災害への心構えについて考えた。	県立総合防災センターの職員の方々 地震体験コーナー・風水害体験コーナーなど
26	湘南三浦	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	地域の関係機関や人々が、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを学んだ。学校の防災倉庫を見学したり、家での日頃の備えを確認したりするなどしながら災害に対して自分たちにできることを考えた。また、「羽鳥先どり祭」という行事を通して、命を守る大切さを下級生に教えてあげることができた。	教科書等
27	湘南三浦	小4	社会	防災教育	市役所の方を招いて、実際に藤沢市がどう地震にそなえているのかの講話を聞いた。また、自分たちが疑問に思っていることについても説明してもらい、自分たちのまちづくりの仕組みや命を守る大切さを学ぶことができた。起震車に初めて乗る児童も多く、地震のこわさや必要な備えを体験することができた。	市役所の防災課の方
28	湘南三浦	小4	社会	防災教育	過去の災害から多くの尊い命が失われたことを知り、今後の防災について話し合った。関東大震災や阪神淡路大震災、東日本大震災などの被災地の様子を調べたり、被災者の話を聞いたりすることで、真剣に自分や家族の命を守るためにすべきことを考えることができた。	(参考資料) 「自然災害に備えるまちづくり」 教育出版4年社会 わたしたちの神奈川県
29	湘南三浦	小3	社会	くらしを守る人たち	社会科で、自分たちの町で町民の生活を守り、豊かに暮らしていける環境を作るために、働いている警察署、消防署の人々の考えや働く様子を学んだ。また、その学習を通して、「いのち」を尊重する心について理解を深めるとともに、自ら「いのち」を守るための行動についても、防災訓練等を生かしながら学んだ。	
30	湘南三浦	小6	社会	命を守るまちづくり	災害から人々の命を守る事例や災害後の復興のまちづくりなどを見て学習した。資料だけではなく、映像を見ることでより理解が深まっていた。災害から命を守るためには、自分も含めた全員が協力しなければいけないこと、災害時にすぐ動けるように日頃から訓練や仕組づくりが大切であることを感じ取っていた。	小学社会6年教科書
31	湘南三浦	小6	社会	生命の重み 歴史	神奈川県原爆被災者の会逗子支部（つばきの会）の方から被爆者体験を聞く会を持つことで、戦争の悲惨さや、二度と繰り返してはいけないという気持ちを育てる。	神奈川県原爆被災者の会 逗子支部（つばきの会）

32	湘南三浦	小4	社会	地震にそなえるまちづくり	<p>社会で「地震にそなえるまちづくり」を学習した後、県の総合防災センターの見学をした。震度7の揺れを体験する「地震体験」や最大風速20m/sの暴風が吹く「風水害体験」で、地震や風の怖さを実感することができた。「煙避難体験」では、視界が悪い中、姿勢を低くして、壁をつたいながら、避難した。火事時には、煙を吸ったことで命を落とす人が多いという意味が理解できた。教科書を使った学習に加え、体験を通して、自分の命を守る方法やまちづくりについて考え、防災意識を高めることができた。翌日、学校で行った避難訓練では、いつも以上に真剣な姿勢で取り組み、防災センターで学んできたことを全校で共有することができた。</p>	<p>社会見学 (神奈川県総合防災センター)</p> <p>健康安全的行事 (避難訓練)</p>
33	湘南三浦	小5	社会	平和学習	<p>平和学習の一環として、「神奈川県原爆被災者の会」の方を迎え、当時の様子や実際に体験されたことをスライドを交えてお話を伺った。戦時中の生活や原爆投下にいたるまでの経緯、実際に被災した後の生活等を絵で表したものをを見せていただきながら、話を伺った。実体験であるので、児童はより本やネットで調べるよりも身近に感じる事ができた。</p>	<p>神奈川県原爆被災者の会</p>
34	県央	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	<p>各地で起こる様々な自然災害の中から、私たちの身近で起こりやすい地震と水害について学習した。地震や津波に備える地域の取り組みを調べたり、ハザードマップを用いて、避難所を確認したりすることで、自分の命を守る事の大切さを改めて感じる事ができた。また、厚木市の歴史を振り返って、玉川河川改修について学習した。大雨が降ると、玉川の水かさが増え、堤防が壊れ浸水し、人の命が奪われていたことを知った。「昔の人々も命を守るために様々な努力を重ねてきた」ことを学ぶことができた。昔の人々のおかげで今があるから、命を大切に生きていきたいという思いをもつことができた。</p>	<p>わたしたちの厚木</p>
35	県央	小4	社会	地震からくらしを守る	<p>本授業では、地震発生時の話や被害にあった場所の写真から、地震が発生するとどんな被害が出るかについて考えその学びを通して命を大切にすることをねらいとした。導入では、教科書に掲載されている被害にあった場所の写真を見せ、地震の恐ろしさについて考えた。その後、地震が発生した時の話を読み、地震が発生するとどうなるのかについて考え学んだ。終末では、「地震が発生すると様々な被害があり、命の危険にさらされる。」「自分の命は自分で守る。」という考えをもたせることができた。</p>	<p>4年 小学社会4 (東京書籍)</p>
36	県央	小3	社会	火事からまちを守る	<p>社会科の学習で、消防の学習を行った。「地域の人々の協力」について考えた際、消防団について知っている児童は少なかった。そこで、消防団に所属している本校職員と、一緒に消防団員をしている農家の方を講師として招き、消防団の役割について学習した。消防服や靴、ホースなどを間近にし、楽しく学習した。講師の方には、「みんなにできることは、火遊びをせず、いのちを大切にすること」と教えていただき、心にしみているようだった。</p>	<p>講師は、本校職員と農家の方(消防団で働いている方)</p>

37	県央	小複合	社会	地震にそなえるまちづくり	本校庁務員の家族が東日本大震災で被災しており、発災直後に家族を探しに行った様子や、その後自宅の横浜と何度も往復して支援した経験を、当時の生の写真や資料とともに、本人の話を聞いた。庁務員の話聞いて興味を持った事務員が発案し、写真の整理や教材準備をせず夏休みに有志の教員で話を聞いた。是非子どもたちにも聞かせたいと、調整がついた学年が2学期に実践した。子どもたちはあらためて津波の大きさや恐ろしさを実感し、防災の意識を高め、日ごろの自分たちのあたりまえの生活に感謝する気持ちが出たなどの感想を持っていた。	講師：庁務員 補助：事務員 実施学年：小4・6年
38	県央	小6	社会	長く続いた戦争と人々の暮らし	歴史の学習で近代に入る前に、校外学習として千代田区の「昭和館」を見学した。展示物や豊富な映像資料で戦争の恐ろしさや当時の抑圧された不自由で不安な生活の様子を実感し、改めて平和の大切さについて考え、歴史学習に意欲を持って取り組むきっかけになった。	昭和館
39	県央	小4	社会	防災教育「地震からいのちを守る」	地震による被害の大きさや地震が起こるしくみについて、写真や動画を通して学び、実際に地震が起きた時、いのちを守るための行動や、地震への備えについて考えた。また、防災センターでの見学や地震体験の経験も踏まえ、一人一人が自分事として考えた。まずは、自分のいのちを自分で守ること、それから、お互いに助け合うことが大切だと、友達と話し合った。普段から自分にできることを探したいと、身近なこととしてとらえている児童が多かった。	海老名市防災学習テキスト「地震からいのちを守る」
40	県央	小4	社会	地震に備えるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震や津波に備える地域の取り組みについて調べる活動を通して、市や県などの関係機関の協力の仕組みについて学習した。</li> <li>地震が起こると、どのような危険があるのかを考え、その際に、命を守るための具体的な方法などについて、映像や写真、テキストを用いて学習した。</li> <li>シアターや展示物の見学、地震体験コーナーなどを通して、命を守るための実践的な行動や知識を学び、日頃の意識向上につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海老名市防災学習テキスト(デジタル)</li> <li>神奈川県総合防災センター見学</li> </ul>
41	県央	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	自然災害への対策や設備を知り、地域の取り組みについて調べる学習。休日に学校で行われた地域の避難所開設訓練の様子を写真と動画で撮影し、授業で活用した。いつも自分たちが生活している学校を舞台に地域の人たちが集まり訓練する様子を目のあたりにし、児童は興味を持って写真や動画を見ていた。災害にあったときに命を守るために地域の人たちと協力していくことの大切さを学んだ。	2022/9/4避難所開設運営訓練
42	県央	小6	社会	防災教育「災害からわたしたちを守る政治」	避難生活を想定した備えについて考えさせたところ、児童によって意識が異なっていることが分かった。実際に体育館での避難生活が始まった時、自治体等からはどんな支援が行われるのか、支援が行き届くまでどの程度時間を要するのか、備蓄倉庫にはどんな物が備わっているのか。まずは支援される物資や見込まれる時間、避難所として開設される学校の防災設備について学んだ。備蓄倉庫に入っている物、校庭の貯水装置、トイレなどを紹介していくと驚く様子が見られた。改めて備えについて考えさせたところ、必要ない物を用意していたり、必要以上の量を用意していたりすることに気づいていた。また、家庭で備えについて話し合ってくる児童もいた。	学校防災設備について座間市役所危機管理課に紹介してもらった時の写真や動画。ざま災害ボランティアネットワークに紹介してもらった備蓄倉庫内の写真。



43	県央	小6	社会	近代国家をめざして～戦争と人々の暮らし	戦争の被害や、悲惨さ、人々の思いなどについて、調べ学習を通して、資料から読み取り自分事として考えた。「太平洋戦争がどこで止められたか」という視点を持ち、人の命の大切さについて考えを深めた。	教科書資料集本
44	県央	小3	社会	農家の仕事	落合小学校は田畑に囲まれており、様々な農作物が作られている。給食にも綾瀬産の野菜が出されることもあり、子どもたちの興味・関心も高い。農業を営んでいる保護者（祖父母）に協力を依頼し、農家の畑を見学し、収穫作業を行った。実際に育てている農家の方から工夫や苦勞を聞き、ほんの一端だが作業を担ったことで、農家の方がどのような思いで農作物を育てているかを知ることができ、もっと大切に食べていきたいという思いを高めていた。	
45	中	小4	社会	「自然災害にそなえるまちづくり」	自然災害から地域の安全や命を守るための諸活動について学んだ。「火山の噴火にそなえて」では、鹿児島県の学級とGoogle meetでつなぎ、その中で、それぞれの地域での防災や命を守る活動についても意見を交わすことができた。	鹿児島の学級は、昨年度まで本校に勤め、今年度から鹿児島で勤務している教諭の学級。
46	中	小4	社会	自然災害からくらしを守る	まず、私たちのくらしの周りでは、自然災害の危険と隣り合わせであることを児童に理解させた。その上で、私たちのくらし（命）はどのように守られているのかということをも、「自助」「共助」「公助」の順にまとめた。そして、これから大切な命を守っていく上で、自分達にできることは何かということ話し合い、普段の生活から自分だけでなく、周りの人の命も大切なものだという認識を改めて深めることができた。	社会科副読本「わたしたちの平塚」
47	中	小4	社会	地震にそなえるまちづくり	過去に起こった自然災害の様子を知り、災害から命を守る取り組みを理解するとともに、自身の生活の中でのそなえについて見直すことを学習の目当てとした。関東大震災について調べたり、東日本大震災の体験を家族にきいたりする活動を通し、災害の恐ろしさや命を守る備えについて調べた。災害がいつ起こっても、まずは自分の命が守れるよう、備蓄品や避難場所など家族で話し合う時間を設け、実生活に生かせるように指導した。	わたしたちの平塚
48	中	小3	社会	消防団員の様子	平塚の地域の様子を探り、自分の住む地域の良さを考える学習の一つとして自分達の生活を守ってくれる消防活動の学習をした。119番のしくみや消防隊員の1日の生活の様子を学習したところで、地域の消防団へ校外学習に行くこともできた。学習を終えて、「命をかけて命を守る仕事なんだ。すごい。」と感想をもった児童がいて、命の大切さをクラスでも学ぶことができた。	土屋地区消防団員の方々「わたしたちのひらつか」
49	中	小4	社会	地震にそなえるまちづくり	自分たちの市、地域、地区について、防災に対する取り組みを学習した。普段の生活では、なんとなく知っている、見ている程度の防災対策だったが、学習を進めていく中で、知識として定着をしていく様子が見られた。 関連して、学習のまとめで県の防災センターに見学に行った。防災体験をしたことで、より自分事として捉え日頃の対策・訓練に重要性を感じている児童が多かった。	神奈川県立防災センター「わたしたちのひらつか」



50	中	小6	社会	平塚空襲の体験をきく会	社会「戦争と人々の暮らし」の学習の一環で、空襲体験の話聞いた。実際に体験した話を聞くことで、当時のことをより鮮明に考えることができ、さらに、命の大切さを改めて感じる機会となった。子どもたちの感想から、「自分や人の命の大切さがわかった。」「戦争での出来事を風化させないように次世代に語り継いでいきたい。」など戦争の恐ろしさと平和の尊さについて深く考えることができた。	講師「平塚の空襲と戦災を記録する会」の方。平塚空襲の体験をきく会の資料（3ページの冊子）を見ながら、受けた。
51	中	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	自然災害について知っていることを確認し、自分たちの地域ではどのような自然災害が起こりうるのかを話し合った。学習用端末で市のハザードマップを見見て自分が住んでいる地区の災害の危険性について知ったり、学校の防災備蓄倉庫を見て、公共施設等で日頃どのような備えをしているのかを学んだ。学習を通して、普段の生活から災害への備えをしていることの大切さや、これから家庭でできる備えについて改めて考えることができた。	小学社会4（教科書）
52	中	小4	社会	防災教室「災害にそなえるまちづくり」	日本で起きた3.11の東日本大震災の翌年に生まれた小学4年生はまだ大きな震災を経験していない。防災センターに行き、震度7の大きな地震の体験や暴風体験をして、いのちの危険を体験した。体験をしている様子を見ているだけで災害の恐ろしさを感じ、泣いてしまう児童もいた。その後、自分のいのちを守るために何ができるかを考え、避難所の確認や災害時に必要な防災グッズについて調べ、どんなものを備えるべきかを話し合った。	総合防災センター
53	中	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	阪神淡路大震災、東日本大震災の二つの震災をとりあげ、災害の恐ろしさを知るとともに、そこで失われた命や、遺族の方々の思いについて理解を深めた。自分の命や大切な人の命を守るために、日頃から心がけておきたいことを確認し、自分達の命を守るために働いている人たちの存在を知ることができた。	社会科 4年生教科書 津波映像資料
54	県西	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	地震や水害にそなえてどんな対策をとっているか、情報をどのように取得するか、自分たちにできることは何かを考えた。	わたしたちの小田原
55	県西	小4	社会	自然災害に備える町づくり	社会「自然災害に備える町づくり」の学習において、自分の命を守るために日ごろから備えておくことの大切さを考えさせた。教科書の内容から発展し、自ら備えておく「自助」、地域で助け合い、備えておく「共助」、県や自治体の力を借りて備えておく「公助」という3つの言葉を学習し、それぞれ自分ができることは何か考えさせた。さらに、学習のまとめとして、防災の丘公園と県立総合防災センターに校外学習に出かけた。防災の丘公園では、東日本大震災に被災されたという厚木市の職員の方のお話を聞き、自然災害の恐ろしさを改めて知ることができた。また、防災センターでは地震体験などを通して、備えておくことの大切を実感することができた。	講師：厚木市職員

56	県西	小3	社会 「地域の安全を守る（火事からまちを守る）」	<p>身近な学校の校舎や、地域の中にある防火設備について調査し、それが法規で定められた配置であることを知ることから学習を出発した。また、火災が起こった時にどのようなしくみで連携をとりながら消火活動が行われるのかについて調べたり考えたりした。単元終末では、実際に地域の消防署見学を行った。施設見学のほか、火事が起こった時の消防士の方の具体的な動きについて、また、学習過程で生まれたその他多くの疑問に答えていただいた。ご自身の具体的な体験から防災の重要性を感じ、人命救助の現場に携わりたいと消防士を志した署員の方のお話や、そのために緊急時や非常時に対応するための訓練が行われていることなど、貴重なお話を聞くことができた。署員の方の地域の安全を守るための思いに触れ、命を守るために様々な人や組織が連携し合い、しくみが整えられていることをさらに深く理解することができた。</p>	<p>地域の消防署の署員の方々 テキストは主に教科書と社会科資料集「わたしたちの南足柄」</p>
57	県西	小4	自然災害から人々を守る活動	<p>自然災害から人々を守る活動について、過去に地域で発生した自然災害と人々の活動を関連付けて考えた。校外学習で「神奈川県総合防災センター」に行き、地震や風水害などの災害体験をした。その後、クラスでの振り返りを通して「災害発生前後の自助」や「地域での共助」について自ら考え、まとめてくる児童が増えた。</p>	<p>中井町ハザードマップ</p>